

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	環境創造学部環境創造学科 Faculty of Social- Human Environmentology
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法 【自己評価 A】
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	・講義・演習・実験等がバランスよく配置されている。また履修科目登録の上限を設定している（2013 年度入学者から 44 単位を上限）。また入門ゼミに必ず入る形となっているばかりでなく、2 年からゼミが必修化されているため、ゼミ担当教員が個々の学生の問題に対応できる体制となっている。そして入門ゼミおよび 2 年生のゼミにおいては、学生の主体的学習を促すため、ゼミ発表会を 12 月半ばに開催している。
4-3-2	・シラバス（各授業科目の詳細な授業計画）が全学共通の書式によって書かれており、2013 年度、教務委員会においてチェックを実施し、今年度も同様の予定である。学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となっている。また、授業評価について、教務委員会とワークショップで検証した。 ・2013 年度学生による授業評価アンケート結果では、教員はシラバスを授業に反映していたかの設問に対して 55.8%の学生が肯定的な回答をしているが、それ以前にシラバスを十分に読んでいない学生が 60.7%もいるのは大きな問題である。
4-3-3	単位認定・成績評価は、各教員の裁量において適確に行われている。
4-3-4	・教務委員会で F D 問題について以下のように計 5 回話し合った。 ① 2013 年 4 月 3 日 ベネッセ発行の FD 雑誌の紹介および入門ゼミのアンケート結果を踏まえた会議 ② 2013 年 4 月 18 日 入門ゼミのアンケート報告に関する件で議論 ③ 2013 年 9 月 11 日 報告事項において 2 回の FD 委員会に関する件を取り上げ、授業改善方法を探る ④ 2013 年 10 月 3 日 FD 研究会報告書作成等に関する件を議論 ⑤ 2013 年 11 月 7 日 FD 研究会報告書について再度議論

【効果が上がっている事項】

4-3-1	・1、2 年生を対象としたゼミ発表会を 12 月に開催され、これを目指して、学生の主体的参加によるゼミ運営が促進されている。また域学連携(経産省補助)事業として南砺市での活動がスタートし、従前の高島平団地のコミュニティ・カフェ運営、中板橋商店街振興活動(中板環創堂)と共に、PBL、アクティブ・ラーニングの場として機能し始めている。 ・2013 年度入学者より年間 44 単位を上限として設定された。
4-3-2	・全学的な書式でシラバスが作成され、記載に精粗が少なくなった。
4-3-3	・成績評価の方法と基準をシラバスに明記し、これに対するチェック態勢（教務委員会）が整った。 ・教務委員会が中心となって、留学中に取得した単位の認定、転部転科生の単位の読み替えを厳密に行った。
4-3-4	・F D 問題に関しては教務委員会を中心に議論が行われている。教育研究ワークショップにおいて、教育方法の改善(F D 活動)の検証を行った。

【改善すべき事項】

4-3-1	・学生のより主体的な学習意欲を啓発する必要がある。アクティブ・ラーニングや PBL 型授業に参加する学生が少ない。 ・授業における効果的な図書館の利用について検討すべきである。
4-3-2	学生が授業選択においてシラバスをよく読むことを促す。
4-3-3	

4-3-4	教員のFD研修会の出席を促す必要がある。
-------	----------------------

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

教授会の議事録、教育研究ワークショップ、教務委員会議事録、『履修の手引き』、大学のHP。
--

《指標データ》

データ集（表6）開設授業科目における専兼比率

（表7）卒業判定

（表8）大学院における学位授与状況

（表9）就職・大学院進学状況

（表10）公開講座の開設状況

（表11）学生の国別国際交流

（表12）海外への派遣学生数

（表13）国別留学生数（学部別）の経年変化

（表14）教員・研究者の国際学術研究交流

（表15）国際交流協定締結機関数・締結国数

（表16）カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度

（表17）各年次の履修登録単位数制限の状況

（表18）卒業要件単位に占める比率

（表19）履修者数規模別の授業コマ数

（表20）学生の授業評価の実施率（大学、学部別）

（表21）学生の授業評価において「当該授業が主体的な参加を促す授業であったかどうかに関する質問（Q13）」に対する肯定的な回答比率

（表22）学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問（Q20）への肯定的な回答比率

（表23）学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問(Q8)への肯定的な回答比率

Ⅲ 【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-3-1 学生の主体的な学習意欲の啓 発	一般授業でのアクティブ・ラーニングの 取り入れ					
		学外の実習的授業への参加数 180 名以上					
	4-3-2 授業選択時のシラバスの熟読	授業評価アンケート項目 8 設問「シラバスをしっかりと読みましたか」 に対する肯定的答えの向上(70%以上)	→				
	4-3-4 F D活動の活性化	教員に F D研修会の参加を促す F D研修会の延べ参加教員数	→				
学部主催の F D研修会の開催		→					
14 年度 目標	4-3-1 学生の主体的な学習意欲の啓 発	学外の実習的授業の参加数の把握	→	A			
	4-3-4 F D活動の活性化	教員に F D研修会の参加を促す F D研修会の延べ参加教員数	→	B			